

二年学年だより

No. 10

1月号

令和7年1月発行

208HR

海外留学のススメ again

皆さんが1年生の時にも「海外留学のススメ」というテーマで書きました。高校もしくは大学卒業後の皆さんの人生設計に「海外留学」をぜひ選択肢の一つに加えてほしいと思い、再びこのテーマを選びました。

私は日本で4年制大学を卒業後、カナダ・トロントで2年間大学院留学を経験しました。皆さんと同じ高校2年生の頃は英語に興味もありませんでした。しかし、高校3年生の時、英語で授業をする担任の先生との出会いをきっかけに英語教育に興味を持つようになり、いずれ良縁を実感する小規模な私立大学で、教授に「英語教育なら本土で学べ！」と言われたことが留学を決意する転機となりました。

私の留学生活は、試行錯誤の繰り返しで、決して楽しいことばかりではありませんでしたが、半年経つころには自分がどのように行動すべきかわかるようになり、異文化での生活を通じて自己肯定感が高まったと感じています。留学を通して、多様な価値観や文化的背景を受容できるようになったと同時に日本人としての意識が高まり、リスクを恐れず挑戦する意識が高まったのが一番の学びです。

「憧れるのをやめましょう！ 憧れてしまっては超えられないので…」これは、侍ジャパンの大谷翔平選手がWBC決勝アメリカ戦の前にロッカールームで仲間たちに放った言葉です。ただ憧れるだけでなく、実際に海外に飛び出してみましょ。その経験は、インターネットを通じて得られるつながり以上に、自分を成長させ、世界と深く結び付けてくれます。行動することで、心の壁を取り払うことができます。英語力については、失敗を重ねながら必要な語彙や表現を身につけていけば問題ありません。

「英語表現の引き出し」を増やすことで、語彙力を鍛え、文章をもっと伝わるものにすることができます。日常的に体験を言語化し、体験にまつわる言葉をストックしていくことで、語彙を豊かにしましょう。「アウトプットを前提とした」インプットを繰り返すことで、英語表現の引き出しが少しずつ増え、使える英語が身につきます。一步世界に足を踏み出す留学を、ぜひ考えてみてください。

(208HR 担任)

旅から見えること

旅は好きだ。学生の頃から機会を見つけては旅行に出かけていた。特に世界遺産に興味があり、国内では神社仏閣巡り、海外はアジア圏に偏ってしまっているが、様々な場所を巡ってきた。コロナ禍となりここ5年ほどは旅行に出かけることもなくなってしまっていたが、近年ようやく旅ができるようになった。しかし、円安、燃料サーチャージ等の旅行代金高騰で、15年前の価格から2~3倍となってしまう、海外旅行はもはや高額の花となってしまった。

若いうちに、日本を離れ外の世界を見ることはよい経験となる。様々な国を旅したが日本ほど治安、生活環境等に恵まれた国はないと感じる。日本での当たり前が、世界から見れば当たり前でないことを実際に見て、感じることで見えてくるものもあると思う。若い時、金銭面、体力面で無理をしてでも旅行をしてよかったと今になって実感する。

最後に。前任校でオーストラリア短期留学制度があり、なぜか私が引率することとなった。現地の日本語を履修している高校生との合同授業があったが、生徒たちは、現地の生徒に日本文化について問われても答えることができなかった。国際感覚を身に付けるためには、まず自国の文化を知ることが大事だと感じる。何事に対しても様々なことに興味を持ち、幅広い視点を持って考えられる中央生であってほしいと切に願う。

(208HR 副担任)

